

評価者	市民生活部長	齋藤 和徳
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針	地域が一体となった観光振興の推進
目標とすべきまちの姿	行政だけではなく、観光事業者、観光団体、市民・市民団体などさまざまな観光主体が一体となり、地域全体で観光振興を推進する体制がとられています。 また、観光資源を生かした収入の確保策が数多く実施され、観光施設の整備や新たな観光施策の推進につながっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	20.5%	平成30年度(2018年度)	16.9%	平成29年度(2017年度)	15.8%
	平成28年度(2016年度)	15.5%	平成27年度(2015年度)	14.7%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.8%	0.8%	0.2%
ちょうどよい	3.4%	47.5%	1.8%
効果不十分	5.8%	3.0%	6.2%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.6%	2.0%	0.7%
ちょうどよい	3.8%	49.1%	1.0%
効果不十分	5.0%	2.8%	10.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	4.6%	1.9%	0.5%
ちょうどよい	2.1%	46.7%	1.8%
効果不十分	3.7%	3.5%	14.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.0%	2.7%	0.2%
ちょうどよい	2.3%	53.8%	1.6%
効果不十分	2.8%	3.2%	9.2%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	3.3%	2.6%	0.6%
ちょうどよい	4.3%	48.5%	2.1%
効果不十分	4.4%	3.1%	9.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	14.2%	47.4%	11.8%	26.6%
平成30年度(2018年度)	20.8%	47.9%	10.1%	21.2%
平成29年度(2017年度)	25.7%	44.1%	9.1%	21.1%
平成28年度(2016年度)	18.5%	54.5%	6.2%	20.8%
平成27年度(2015年度)	20.7%	49.1%	9.4%	20.7%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①観光基本計画推進委員会による第3期鎌倉市観光基本計画の進行管理を行う。(市民-08)
- ②鎌倉花火大会、鎌倉ビーチフェスタ、俳句&ハイクなどに負担金を交付し、本市の観光振興を図る。(市民-09)
- ③鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対する支援を行い、自立的運営につながるような財政基盤の強化を推進し、鎌倉の観光振興を図る。(市民-09、10)
- ④観光協会によるSNSを利用した新鮮な観光情報の発信事業等の推進を支援し、鎌倉の観光振興の充実を図る。(市民-10)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①第3期鎌倉市観光基本計画の進行管理を行い、行政だけでなく、観光団体、市民・市民団体などさまざまな観光主体とともに、地域全体で観光振興を推進する体制を構築する。(市民-08)
- ②鎌倉花火大会、鎌倉ビーチフェスタ、俳句&ハイクなどに負担金を交付し、実施に関わる観光事業者、観光団体、市民・市民団体とともに本市の観光振興を図る。(市民-09)
- ③鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対して共催という形で支援を行い、鎌倉の観光振興を図る。(市民-09、10)
- ④観光協会による事業の推進を支援することにより、観光資源を生かした収入の確保策が実施される。(市民-09)
- ⑤SNSを利用した新鮮な観光情報の発信を支援し、必要な情報の提供や観光客の分散化に寄与するような情報提供を行う。(市民-10)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
市民-08	観光運営事業	5,672	18,028	1.8	1.8	無	b	B
市民-09	観光振興支援事業	14,789	23,454	0.3	0.3	無	b	B
市民-10	観光協会支援事業	55,005	57,242	0.1	0.1	無	b	B

(4) 主な実施内容

- 【主な実施内容】**
- ①第3期鎌倉市観光基本計画におけるアクションプランのたたき台を作成した。(市民-08)
 - ②鎌倉花火大会、鎌倉ビーチフェスタ、俳句&ハイクなどに負担金を交付し、本市の観光振興を図った。(市民-09)
 - ③④鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対する支援やSNSを活用した観光情報の発信支援を行い、鎌倉の観光振興を図った。(市民-10)
- 【実施できなかった事業とその理由等】**

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・鎌倉市単独でなく、地域全体での観光振興を行うことで、観光客の回遊、長期滞在などに結びつけるため、関係団体との連携を行ったことから、有効性は適切とした。(市民-08)
- ・観光基本計画の推進のため、推進体制の確認とアクションプランのたたき台の作成を行ったことから、効率性は適切とした。(市民-08)
- ・鎌倉花火大会、鎌倉ビーチフェスタ等、継続して実施することに協力し、地域の関係者同士の結束が強まり、事業が適切に実施されたことから、妥当性、公平性は適切とした。(市民-09)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	市民-8.9.1	事業名	観光運営事業、観光振興支援事業、観光協会支援事業						
指標の内容	鎌倉に来る前の期待に対する満足度(来訪者アンケート+WEBアンケート)				単位	%	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。								
	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0		
	実績値	79.2	79.5	76.9	78.9	88.1	87.1		
	達成率	93.2%	93.5%	90.5%	92.8%	103.6%	102.5%		